

1 実験 C1 高齢者疑似体験装置ならびに

車いすを利用した校内バリアの探索

1.1 実験目的

高齢者疑似体験装置ならびに車いすを利用してキャンパス内を移動し、高齢者・障がい者の移動に伴う苦労・困難を擬似的に体験する。また、移動経路上に存在するバリアを見つけ、バリアフリーにするための方法や手段について考える。

1.2 実験

1.2.1 使用機器

- ・高齢者疑似体験装置：ヤガミ エルダートライ
- ・車いす：幸和製作所 ハンドブレーキ付きアルミ製車いす B-31
- ・デジタルカメラ（ケータイ可）
- ・ストップウォッチ（ケータイ可）

1.2.2 実験方法

- (1) 3人または4人のグループに別れ、被験者1名、補助者1名、観察者1または2名決める。補助者と観察者は、事前に別添のマニュアルに目を通すこと。
- (2) 校内の目的地を設定する。目的地としては、図書館などの異なる棟・複数のフロアの移動を伴う場所を選定し、目的地までの経路中には、高齢者疑似体験装置の場合には階段を、車いすの場合にはエレベータとスロープを必ず含んでいること。
- (3) 被験者は、まず通常の歩行で経路を移動する。観察者は、ストップウォッチで移動時間を計測する。
- (4a) 被験者は、高齢者疑似体験装置を装着し、同じ経路を移動する。補助者は、被験者のそばに付き添い、手を差し出すなど安全に移動できるよう補助する。観察者は、各移動時間の計測、移動中の様子やその際に生じたバリアの記録（写真撮影、描画、詳細な記述など）などを行う。
- (4b) 被験者は、車いすを利用して同じ経路を移動する。補助者は、手押しハンドルに手を添えた状態で被験者に付き添い、車いすを押すなど安全に移動できるよう補助する。必要に応じ、観察者は、各移動時間の計測、移動中の様子やその際に生じたバリアの記録（写真撮影、描画、詳細な記述など）などを行う。
- (5) 実験終了後、各グループで記録を元に危険個所などを確認し、改善案などを考察する。また、グループ間で実験の記録を見せ合い、意見交換などを行う。

※機材数の関係上、(4a)と(4b)の実験はどちらを先に実施してもよい。

1.2.3 実験結果

実験の結果を表 1.1 に記録し，大まかな移動経路とバリアの位置を図 1.1 に記述せよ．

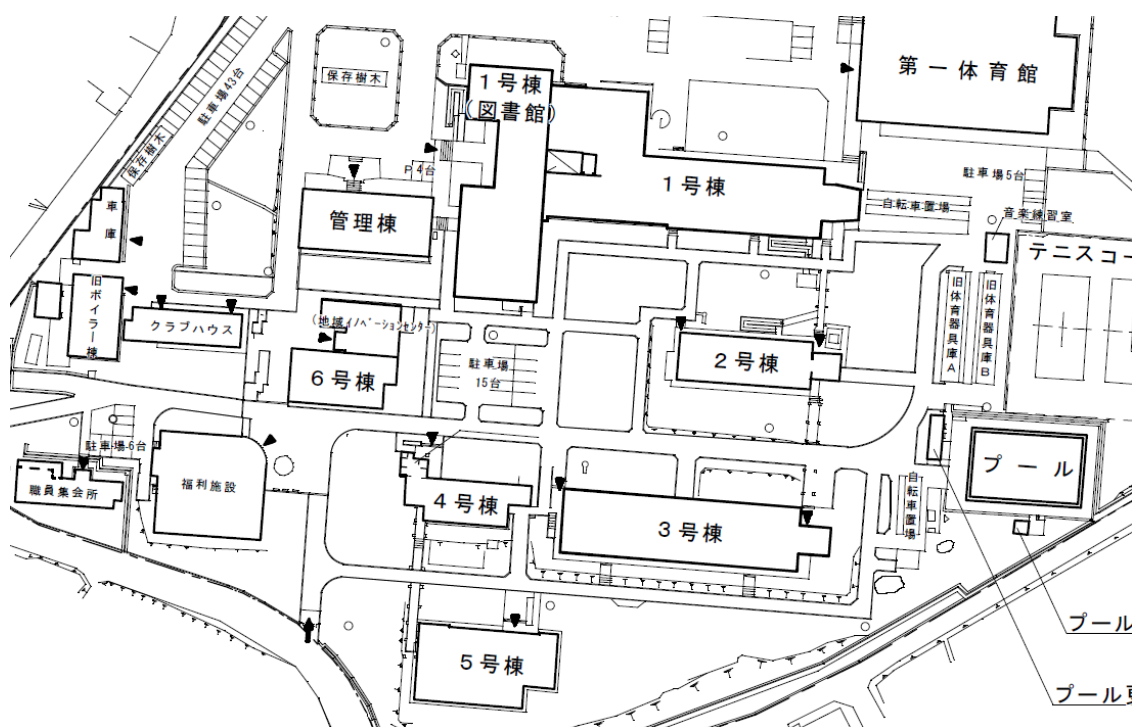


図 1.1 移動経路 (—) とバリアの位置 (×)

【その他の特記事項】

表 1.1 実験の記録

目的地		
移動時間 (通常歩行)		
高齢者疑似体験装置装着	移動時間	
	気付いた バリア等	
車いす	移動時間	
	気付いた バリア等	

1.3 研究事項

点字ブロックや音響信号機など，道路や建物などの社会インフラには様々なバリアフリー技術・ユニバーサルデザイン技術が導入されている．

- (1) 既存のバリアフリー技術を調べ，最も関心を持ったものについて概説せよ．
- (2) 新たな技術を考案し，具体的に図などを用いて説明せよ．